

# 平成30年度 学校自己評価システムシート (県立浦和東高等学校)

目指す学校像	学力の向上と部活動の充実を図り、生徒一人ひとりの進路希望を実現する地域に根ざした学校
--------	--

重点目標	1 学力の向上をめざし、授業改善と学習習慣の確立を進める。 2 規範意識を高める生徒指導と学習及び部活動の環境整備を進める。 3 進路意識を高め、進路希望の実現率を高める指導を進める。 4 開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者	4名
生徒	3名
事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価(1月31日現在)		実施日平成31年2月1日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	① 社会人基礎力として、基礎学力の向上を図り、学力を確かなものとするために、新しい学習指導要領の方向性を踏まえた授業改善を図る。 ② 学習と部活動を両立させる。	① 新しい学習指導要領の方向性を踏まえた授業改善に取り組む。 ② 学習習慣を確立する。	① 年2回の授業公開期間の実施。また、年次研修対象者による授業公開の実施。 ・ 生徒への授業評価アンケートの実施。 ・ 校外で開催される各種研修会への参加。また、そこの学びを還元した授業実践と研修受講報告会の実施。 ・ 授業規律についての共通認識を持ち、徹底を図る。 ② 学習室、図書館の積極的な活用 ・ 自主学習、朝学習の奨励 ・ 時間の使い方や集中度について指導する。	① 一人当たり年間2回の授業参観ができたか。 ・ 授業評価アンケートの結果から授業改善の成果が見られたか。 ・ 校外での学びを自らの授業改善に生かされたか。 ② 学習方法、時間の使い方に工夫が見られたか。	当初の目標を概ね達成した。 ① 授業参観は合計56回で目標値には到達せず。昨年度からは微増。 ・ 授業改善に教員の83%がアンケートを、87%が公開授業を活用して取り組んだ。特に若手教員の意欲増があった。 ② 学習室利用、学習室貸出図書利用とも多かった。授業以外の学習が習慣化(1H/日)できたのは22%。	B	① 授業参観実施方法の改善。 ・ アンケートを継続し生徒主体の授業構築に努める。 ・ 教科として取り組み始めたアクティブラーニングの流れを学校全体の流れに広げる。 ② 学習室IT機器の充実。 ・ 学習と部活の両立を推進し今年度の結果を改善する。	・ 授業改善の取組をさらに進めてほしい。 ・ 生徒は部活動に熱心に取り組む成果を上げているが、学習と部活動を両立させているのか心配である。両立できる環境づくりと意識改革を。 → 基礎学力向上、授業改善学習と部活動の両立
2	① 学校生活における基本的な生活習慣の確立に努め、社会の一員としての規範意識を醸成する。 ② 環境整備を進め生徒の活動意欲を喚起するとともに安心・安全な学校づくりに努める。	① 生徒の自主性を育む生徒指導を展開する。 ② 美化・健康・防災に対する意識向上を図る。	① 遅刻内容を分析し、効果的な遅刻指導を継続する。 ・ 自転車事故、問題行動等の未然防止に努めるとともに、初期対応の充実を図る。 ・ ボランティア活動や学校行事を通じて成功体験を積み、自己肯定感を育む。 ② 環境委員会、保健委員会、LHRを活用する。 ・ 各委員会で現状の問題点を話し合わせ方策についての検討をさせる。 ・ 委員によるクラスでの呼びかけ活動をする。 ・ 「ほけんだより」や掲示物等を活用し、健康面についての関心を高める。 ・ 防災訓練においては事前のLHR等を活用し、臨機応変に動けるようにする。	① 遅刻者、遅刻数、交通事故、問題行動を減少できたか。 ・ 生徒の主体性を育成できたか。 ② 委員会活動や学校行事等を通して生徒の意識向上が図れたか。 ・ 委員会の運営に生徒が主体となって取り組めたか。 ・ 委員会で出された問題点をどのくらい改善できたか。 ・ 防災意識において迅速、安全に避難できたか。	当初の目標を概ね達成した。 ① 遅刻20%増、交通事故報告書30%減、問題行動は6件増。 ・ 生徒交通安全伝達講習の実施。 ・ 交流事業に1年生や初めて参加する生徒が増え、主体性が増した。 ② 委員会では議事進行等役員が中心となる姿勢が定着しつつある。 ・ 学校保健委員会では問題点を分析し、充実した内容の発表ができた。 ・ 防災訓練では今年度初めてシェイクアウト訓練を導入し、生徒の主体的な取り組みを促すことができた。 ・ 教職員救命講習会参加21名。	B	① 学年と生徒指導部で連携し、遅刻を繰り返す生徒への個別対応を工夫、実施する。 ・ 生徒会と連携し生徒が主体的に活動できる場を多く提供し、主体性育成に努めたい。 ② 委員生徒から本校の問題点を全校生徒に呼びかける手段について検討を進めたい。 ・ スムーズな避難動線等、生徒の避難方法を改善したい。 ・ 教職員対象の救命講習会を定着させ、危機管理体制の確立に向けて前進させたい。	・ 浦和東高校の良さが、挨拶、服装、行動に表れている。 ・ 交通安全については、継続して取り組んでほしい。特にヘルメット着用の推進をお願いする。 ・ 防災訓練は回数の積み重ねが大事であり、体で覚えるように指導されたい。 → 基本的な生活習慣の確立 規範意識の醸成 安全安心な学校づくり
3	① 計画的・系統的な進路指導を実践し、生徒一人ひとりの自己実現へ向けて進路希望を把握し指導に当たる。 ② 高大接続改革・大学入試改革への円滑な対応を進める。	① 生徒一人ひとりの進路実現へ向けて多方面から指導に当たる。 ② 「学力の3要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)に基づいた進路指導に当たる。	① キャリア教育の充実を目標に進路指導を実践する。 ・ 適切な時期に、効果的な進路資料の提供をする。 ・ スタディサポート(ベネッセ)の全校実施やその他の検定等を利用し生徒の学習意欲を高める。 ② 生徒一人ひとりが主体性を持って人生を切り開いていく力をつけるために、目標を見据えたポートフォリオ作成を促す。	① 実力診断テストの結果を前年度と比較する。 ・ 進路行事、進路結果満足度は90%を超えたか。 ・ 上位私立大学合格者を若干名、4年制大学合格者数200名以上。公務員合格者複数名、民間就職率100%を実現したか。 ② 第1学年の生徒で、ポートフォリオ(「1年次高校生活活動振り返り」)を自主的に行えた生徒が70%を超えたか。	当初の目標をほぼ達成できた。 ① 国語・数学・英語の総合平均点の前年度比は1、2年とも向上した。 ・ 生徒/保護者の進路満足度は行事で76/81%、結果92/87%。 ・ 4年制合格176名、公務員採用3名、民間企業就職率9名100% ② 1年次高校生活活動振り返りを自主的に行えた生徒は75%であった。 ・ eポートフォリオ導入に向け検討を進め、具体的な取組を決定した。1年生徒保護者対象説明会を実施。	A	① 高大連携に伴う入試改革に対応できる進路指導を充実させ、満足度を向上させるため、キャリア教育の視点から指導方法等の研修を深める。 ② 多様化する教育・入試改革に向け、学びの基礎診断、英語4技能の測定、eポートフォリオ導入等について精査、方向付けを行うとともに、保護者説明を実施して滞りなく進めていく必要あり。	・ 進路満足度は評価できる結果である。 ・ 高大接続改革の対応については民間の力も借りながら継続して進めてほしい。 ・ 生徒の進路実現に向け、保護者への働きかけを地道に継続してほしい。 → 計画的な進路指導 高大接続改革への円滑対応 保護者連携と自己実現支援
4	HPなどを活用し、本校の教育活動を県民に広く発信する。今後も、本校に対する保護者、地域、並びに中学生からの信頼を高め、理解を深めるために、積極的に広報活動をおこない、教育活動をPRしていく。	地域に根ざした学校、開かれた学校作りを推進する。	・ 年2回の中学校・塾訪問や年5回の学校説明会の実施、また、校外で開催される高校説明会への参加。 ・ 学校案内の工夫と改善を進め、HPでは情報の発信を頻繁に行う。 ・ これまで進めてきた異校種連携をさらに進める。 ・ 保護者、地域住民の学校行事(公開行事に限る)への参加を促す。	・ 学校説明会などを通して本校への理解が深まり、進学意欲が高まったか。 ・ HPの更新は頻繁に実施できたか。 ・ 異校種連携は進んだか。 ・ 保護者などの学校行事への参加者数が増したか。	当初の目標をほぼ達成できた。 ・ 学校説明会等を通して本校への理解興味関心を深めることができた。 ・ HPの更新は各部活主導に改善し、頻繁に実施することができた。 ・ 異校種連携は小、中、特支継続、大学連携を新たにスタートさせた。 ・ 学校説明会2363名で7%増。 文化祭は891名で昨年比微減。	A	・ 他校の例を参考に学校説明会がさらに効果のあるものとなるよう検討をしたい。 ・ HPの更新は部活動をはじめ、これまで以上に積極的に進めていきたい。 ・ 異校種連携を強化するとともに、地域との連携、特に埼玉スタジアム連携を進める。	・ 情報発信は概ね良好だが、サッカー部以外にも浦和東高校の良さをもっと発信すべき。 ・ 浦和東高校の良さは十分に認められている。今後もHPを活用した広範囲への情報発信を。 ・ 地域、特に埼玉スタジアムとの連携をさらに発展させたい。 → HP情報発信、地域連携